

3年 進路・学習だより

春季大会（一部県大会予選）が無事終わり、落ち着いて学習に取り組める状況になった今……
「3年生の学習」「セミナー学習・新研究」の2本立て学習の取り組みも軌道に乗せなければなりません。
あなたの取り組み状況はどうでしょうか？ **勉強に王道なし**とよく言われます。確かな実力をつけるためには、1時間の授業、毎日のシート1枚1枚、1問1問をおろそかにせず、納得いくまで取り組む地道な努力を継続していくことが大切です。インプットとアウトプットの繰り返しです！

A：当たり前のことを B：馬鹿にしないで C：ちゃんとやる

定期テストも入試のうち

えっ、そんなばかな！『定期テストは定期テスト。』『入試は来年のこと。全然違うはずだ。』『きいてないよ〜。』と言わないでください。こんなことを言うのにはちゃんとした理由があるのです。

理由その1

入試にあたって、中学校から受験する高校に、生徒一人一人について「調査書」というものを提出しなければなりません。学年保護者懇談で説明済みです。通称内申書というものです。そもそも、入学者選抜試験で内申書が書かれるようになったのは、『入試がそのときだけの点取り主義だけで決着がつけられるようではいけない。ふだんの学習態度や学習状況など、本人の日常生活も重視し、それを考慮した入試選抜を考えるべきだ。』という発想から生まれたものです。とすると、内申点において、定期テストの成績はもちろん、授業中の態度や作品の提出状況なども当然加味されることとなりますね。『入試のとき点数をとればよいのだ』という考えは捨ててください。

「今度の試験は頑張る！」というのは、「今日から頑張る！」こと。

理由その2

よく考えてみると、3年生の定期テストは入試の範囲の3分の1以上を占めるわけですから、今の勉強は定期テストの勉強と近い将来にある入試の勉強にもなっていることとなります。今度の試験でがっつりやっておけば、3年生で学習する内容についてばっちり土台ができあがるということとなります。2つの試験の勉強を兼ねていると思えば、うかうかしてはいられませんね。

※推薦入試についての確認

入試にはテストによる検査・学力試験の他に、調査書に加えて実技や面接によって合否を決める「推薦入試」制度については、説明がありました。「推薦」される生徒の満たすべき条件として、成績の他に「中学校長がその人物を保証できる生徒である」ことがあります。これは、「当たり前のことを当たり前でできる生徒である」ということです。当たり前のこととは例えば、身なり、あいさつ、提出物、発言などの授業態度、清掃、行事への取り組み、時間を守ることなどです。

推薦を考えている人、今のあなたはどうか？

推薦を考えていなくても「当たり前のことを当たり前ででき」たら、学校生活がとても充実したものになることでしょう。いつでもどんなときでも、「できる人」でいたいですね。

尚、「推薦入試」に関しての詳細は3年保護者懇談でお伝えし、学級でもお話ししました。再度、11月の「進路説明会」で説明しますが、その時点では間に合わない内容について、懇談会で説明しました。懇談会にお越しになれなかった方は、プリントをお読みになり、質問等は、進路指導主事坂本教諭までお問い合わせください。

お知らせ

- * 7月27日(土) 9:00~12:25 「金沢大学附属高等学校・生徒及び保護者向け説明会」
- * 5月25日(土)・6月22日(土) 13:00~14:30 「第一学院高等学校オープンスクール」
- * 第一学院高等学校「学費減免制度について」 → www.daiichigakuin.ed.jp